

無形文化遺産保護と災害

アジア太平洋地域における研究事業概要

無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究 (2020-2023年度)
新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する調査研究 (2021-2023年度)

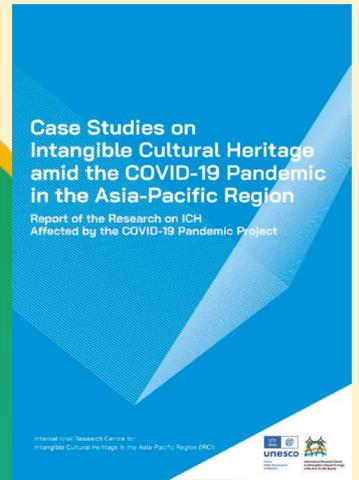
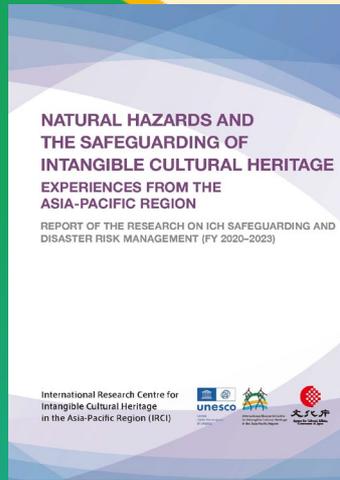
事業概要

IRCIでは、無形文化遺産と災害に焦点を当てた2件の研究事業を実施した。

無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究 (2020-2023年度)では、アジア太平洋地域における様々な自然災害を取り上げ、それらが無形文化遺産および災害リスクマネジメントにどのような影響を及ぼすか調査を行った。災害プロセスにおける無形文化遺産のリスクと有効性について、多様な災害の種類と無形文化遺産の類型を考慮しつつ分析を行い、その上で、コミュニティの状況を具体的に把握し、災害時に無形文化遺産を保護および活用するための行動計画策定を目的とした事例調査を実施した。また調査過程を通じて、無形文化遺産および防災専門家間の協力促進にも努めた。

2021年度には、本事業の一環として、新型コロナウイルス感染症が無形文化遺産に与える影響に関する調査も実施し、その後、**新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する調査研究**事業を立ち上げ、2022-2023年度にかけて事例研究を行った。事例研究では、変化するパンデミック状況に適応する無形文化遺産の力が明らかになり、将来の危機に対応するための知識構築に貢献する成果を得ることができた。

本ポリシー・ブリーフは、これら2件の事業成果をまとめた報告書「自然災害と無形文化遺産の保護:アジア太平洋地域の経験」(2024年3月、英語)と「アジア太平洋地域における新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する事例研究」(2024年4月、英語)の要点を紹介するものである。



自然災害と無形文化遺産の保護:アジア太平洋地域の経験 (2024年3月、英語)



アジア太平洋地域における新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する事例研究 (2024年4月、英語)



主な調査成果、および提言

災害によって引き起こされる様々な変化により、無形文化遺産の実践や継承が脅かされる。これには、避難、居住地移転、コミュニティの分断、無形文化遺産の実践に必要な道具・設備・材料・重要な場所の損傷や喪失、そして市場や無形文化遺産を実演する機会の喪失などが含まれる。



災害が無形文化遺産に及ぼす影響の特徴についての理解が進み、また、災害に対する無形文化遺産のリスクや脆弱性を検討するための手法もいくつか開発されている。しかしながら、災害後の無形文化遺産の状況は、その地域的な条件や災害前から存在する様々な危機の要因などにより大きく異なる。したがって、更なる研究により、既存の分析方法をより精緻化することが必要である。

無形文化遺産は災害時に重要な役割を果たし、災害の影響や被害を軽減し、地域社会のレジリエンス(回復力)および災害後の復興の促進に積極的に貢献する。しかし、防災に有効な伝統的知識や習慣は、多くの場合、その担い手である地域の人々によって文化遺産として十分に認識されていない。したがって、災害に効果的な知識や実践を無形文化遺産として認識し、その価値を広め、保護していく必要がある。



無形文化遺産関係者と防災関係者が協力を一層深め、地域や先住民の知識(在来知)を防災戦略に取り入れることにより、防災促進への相乗効果が生まれ、地域社会のレジリエンス向上につながる。

無形文化遺産が地域コミュニティで支持され、積極的に実践されている場合、災害によって引き起こされる困難に対処し、無形文化遺産の実践を何らかの形で継続する方法を見出すことができる傾向にあり、無形文化遺産が持つレジリエンスや適応力を示している。



無形文化遺産の存続を確保することは、保護の最重要課題である。無形文化遺産の実践が緊急事態による困難を乗り越え、次世代へと継承されていくためには、平常時の生活の中で、効果的に保護されている必要がある。

国レベルおよび国際的な枠組みでは、コミュニティにおける個別の状況に対応するには限界があるため、地域に根ざした無形文化遺産保護、および無形文化遺産を防災に活用するための行動計画の策定が極めて重要である。



無形文化遺産に関する調査や評価の過程、ならびに無形文化遺産保護の計画や無形文化遺産を含む災害リスクマネジメント戦略の策定において、地域社会の積極的な参加を確保することが肝要である。

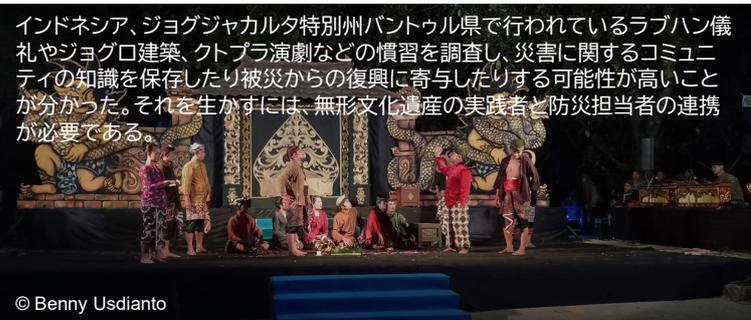
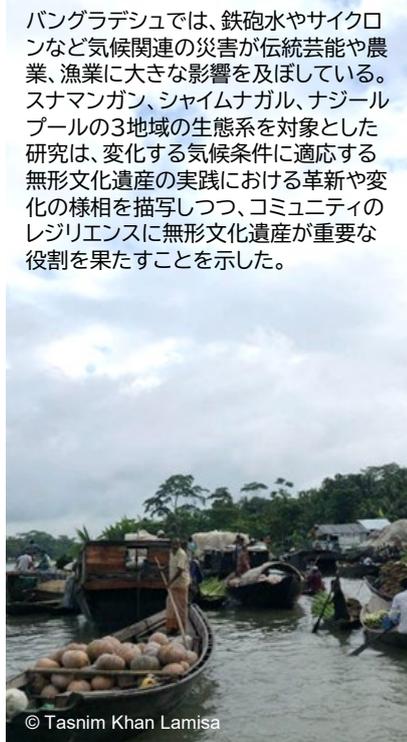


地域社会の持続可能性やレジリエンスを促進し、また気候変動がもたらす影響に対処するため、地域社会の果たす中心的役割をさらに強調すべきである。

無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究 事業概要および事例研究

「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業では、自然災害に焦点を当て、アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントの関係について調査を行った。無形文化遺産および災害リスクマネジメント領域で活動するアジア太平洋地域の研究者と協力し、様々な無形文化遺産と地域社会を対象とした事例研究を実施した。事例研究においては、無形文化遺産は災害に対して脆弱である一方で、地域社会のレジリエンスや、災害への備え・災害時対応・復興を含む防災の重要な資源ともなるという二つの側面があることを重視し、自然災害の種別と無形文化遺産の類型ごとに、災害が無形文化遺産に与える影響および防災プロセスにおける無形文化遺産の役割を把握するツールとなるマトリックスを開発した。

報告書では、アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントの関連性に関する知見を提供するとともに、地域の無形文化遺産を自然災害から保護するための実践的な事例や方策を提示する。



災害プロセスの中で無形文化遺産へのリスクを理解する

潜在的な災害のリスクと脆弱性を理解することは、無形文化遺産を保護するための第一歩となる。無形文化遺産は、実践者や知識の共有・継承、実演機会といった人に関わる要素、舞台や工房、耕作地、資源環境などの場所に関わる要素、そして道具や楽器、設備などの物という三つの要素で構成されるものと捉え、どのような要素が、災害プロセスのどの段階で、どのように影響を受けるかを考えてみよう。こうした災害リスク評価は、無形文化遺産の目録作成の一環として行うこともでき、保護計画に組み込むこともできる。



無形文化遺産と災害リスクマネジメント

口承伝承や芸能、伝統的知識のような無形文化遺産は、地域社会の結束やレジリエンス向上に寄与し、災害への備えにも役立つ。伝統的な建築、工学技術、生業および資源管理の戦略、そして食物技術などは、効果的で活用しやすい防災・減災のツールとなる。しかし、こうしたレジリエンスに有効な無形文化遺産は急激な生活様式の変容だけでなく、トップダウンの防災枠組みによっても脅かされている。無形文化遺産保護を防災計画に組み込むための、さらなる協力が求められる。



コミュニティの参画による持続可能性とレジリエンスの実現

持続可能でレジリエントな地域づくりには、コミュニティの参加とコミュニティ中心の活動が不可欠である。地域のレジリエンスを高めるためには、伝統的な知識や実践を効果的に地域の防災枠組みに盛り込むべきである。また同時に、地域に根付いた災害に関連する知識や実践を、無形文化遺産として更に支援する必要がある。

新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響に関する調査研究 事業概要および事例研究

「新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響に関する調査研究」事業では、アジア太平洋地域の9か国の研究者と協力し、コロナ禍における無形文化遺産の実践や継承を記録した。事例研究では、無形文化遺産が、死に至ることもある感染症の直接的な影響だけでなく、移動・集会・祭礼・儀式などを制限してウィルスから人々を守る社会的措置によってさまざまな影響を受けた様子が明らかになった。一方、無形文化遺産の実践を妨げたネガティブな影響だけでなく、在宅でも従事可能な伝統工芸の再活性化、オンラインツールを使用した無形文化遺産のマーケティング強化、在宅時間が増加したことによる継承の促進など、ポジティブで革新的な対応があったこともわかった。

本事業の成果は、世界規模の課題に直面した無形文化遺産の変容、レジリエンス、そして無形文化遺産に内在する適応力を理解するための重要な資料であり、将来の危機的状況下における無形文化遺産保護の取り組みに有効な知見を提供するものである。



フィジーの陶工や織物職人は、パンデミック下の観光客減少とロックダウンにより経済的に困窮し、伝統技術の実践を継続する意欲が低下した。しかし、一部の実践者はデジタルプラットフォームを活用し、オンラインで製品を販売する取り組みを始めた。

© Elizabeth Edwards



インドネシア、ジョグジャカルタの伝統的なバティックは、消費者が高級品よりも安価な商品を好む傾向に加え、パンデミックにより販売が減少し、経済的困難に陥った。職人たちはこの状況に適応するため、新しい模様を施したマスクなど、小さくて手頃な価格の商品を製作し、顧客を引き付けた。

© Mahirta



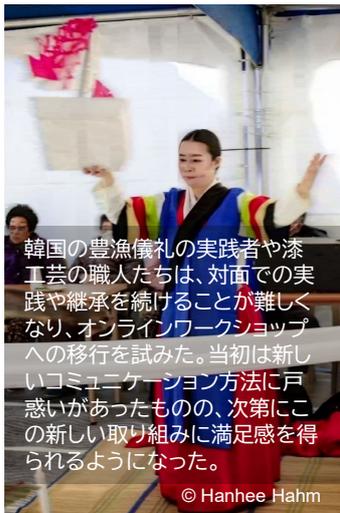
キルギスでは、パンデミックにより医療システムが逼迫したことで、手頃な代替手段として伝統医療が再び注目されるようになった。不安を軽減するための精神的な実践も人気を集め、コロナ禍およびその後の健康と幸福に対する持続可能なアプローチを促進した。

© Rural Development Fund



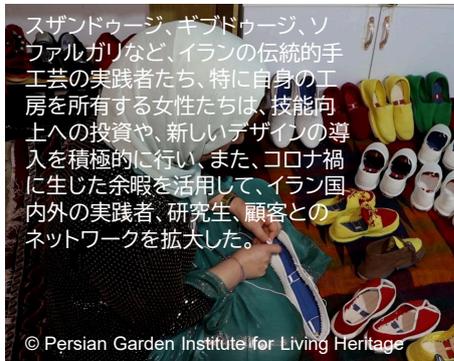
バブアニューギニア、トライの人々の貝貨分配儀礼とマラゲネ舞踊は、集会の中止や無形文化遺産に関する知識の担い手の死亡増加により影響を受けた。困難に直面する中、マラゲネの新しい振り付けが考案され、若者たちは自宅で新しい技術や知識を学ぶ機会を得た。

© Naomi Faik-Simet



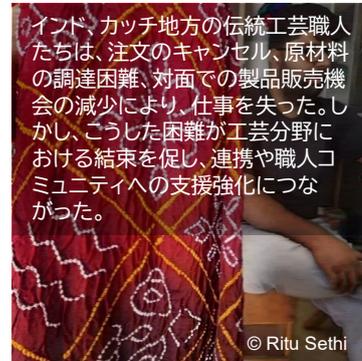
韓国の豊漁儀礼の実践者や漆工芸の職人たちは、対面での実践や継承を続けることが難しくなり、オンラインワークショップへの移行を試みた。当初は新しいコミュニケーション方法に戸惑いがあったものの、次第にこの新しい取り組みに満足感を得られるようになった。

© Hanhee Hahm



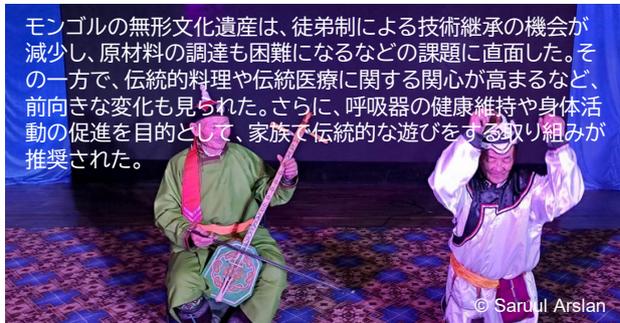
スザンドウージ、ギブドウージ、ソファルガリなど、イランの伝統的手工芸の実践者たち、特に自身の工房を所有する女性たちは、技能向上への投資や、新しいデザインの導入を積極的に行い、また、コロナ禍に生じた余暇を活用して、イラン国内外の実践者、研究生、顧客とのネットワークを拡大した。

© Persian Garden Institute for Living Heritage



インド、カッチ地方の伝統工芸職人たちは、注文のキャンセル、原材料の調達困難、対面での製品販売機会の減少により、仕事を失った。しかし、こうした困難が工芸分野における結束を促し、連携や職人コミュニティへの支援強化につながった。

© Ritu Sethi



モンゴルの無形文化遺産は、徒弟制による技術継承の機会が減少し、原材料の調達も困難になるなどの課題に直面した。その一方で、伝統的料理や伝統医療に関する関心が高まるなど、前向きな変化も見られた。さらに、呼吸器の健康維持や身体活動の促進を目的として、家族で伝統的な遊びをする取り組みが推奨された。

© Sarul Arslan



バングラデシュのパウルなどの歌の実践者たちは、様々な制限や人との接触を避ける必要があっても、自宅練習を続けた。携帯電話やソーシャルメディアを活用して演奏を配信し、遠く離れた場所にいるファンとも交流することで、活動の幅を広げた。

© Saymon Zakaria

混乱

新型コロナウイルスの感染拡大は、無形文化遺産の実践と継承に大きな混乱をもたらした。感染による担い手の喪失に加え、祝祭などの行事の中止を含め、人々が集まる機会が制限されたことで、無形文化遺産の実践の継続と継承は深刻な危機に直面した。無形文化遺産の実践に不可欠な原材料や製品の供給にも混乱が生じた。観光に関連する無形文化遺産の活動や製品は、その機会を失った。

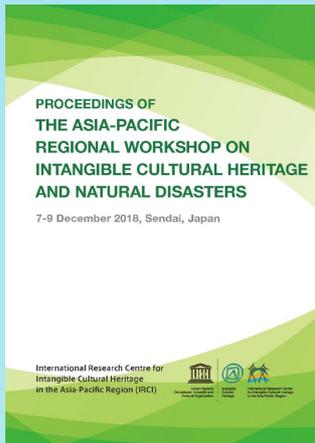
伝統的な実践の復興

パンデミックは無形文化遺産を復興する機会となった。ロックダウンは、家族が一緒になって、伝統的料理や遊びを楽しむ絶好の機会となり、その結果、無形文化遺産の継承も促進された。地域の自然や資源を利用する伝統医療の知識が、身体的・精神的な病の予防や治療の手段として注目を集めた。特に、移動を制限され実家に滞在していた若者たちが、地域の工芸品生産や伝統儀礼などに積極的に参加するようになった。

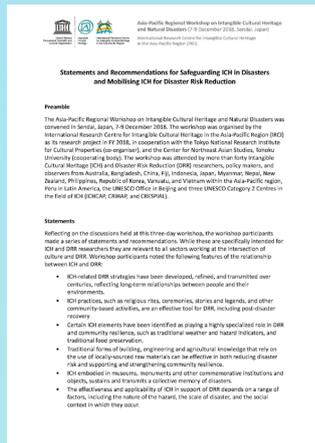
適応

パンデミックは、無形文化遺産の実践者たちが変化する状況に積極的に適応し、実践を継続するための新たな取り組みを探る転機となった。職人たちはオンラインショップなど新しい販売方法を模索し、オンライン販売に適した革新的な製品開発にも挑戦した。大勢の人が集まらなくなった公演や祭事は、録画してオンライン配信されるようになり、これまで接点の薄かった地域の人々を含め、より多くの人々に届くようになった。困難な状況下における実践と継承の新しい取り組みは、無形文化遺産の柔軟性とレジリエンスをあらわしている。

無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究



アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ プロシーディングス (2019年3月) (英語)



無形文化遺産を災害から保護し防災に活用するための声明および提言 (2018年12月)



アジア太平洋地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する予備調査—2016-2017年度事業報告 (2018年3月) (英語)



新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する調査研究



コロナ禍における無形文化遺産のレジリエンス(ブックレット) (2023年3月) (英語)



「新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する調査研究」事業質問票調査速報 (2022年8月) (英語)



IRCI概要2024-2025



リーフレット



その他の出版物



無形文化遺産のSDGsへの貢献—教育とまちづくり (2022年3月) (英語)



アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集—2019-2021年度事業報告 (2022年3月) (英語)



アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関するIRCI研究者フォーラム「無形文化遺産研究の進展と課題—持続可能な未来に向けて—」(2022年3月) (英語)



アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラムは、研究事業、イベント、出版物に関する情報を共有するためのFacebookグループです。アジア太平洋地域を中心とする無形文化遺産の保護に資する調査研究に関心のある方は誰でも参加いただけます。

参加はこちらから



独立行政法人 国立文化財機構
アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI)

〒590-0802
大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁
堺市博物館内

Tel: (072)275-8050
Fax: (072)275-8151
Eメール: irci@nich.go.jp

ウェブサイト: <https://www.irci.jp/jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/IRCI.Official>
Youtube (IRCI.Official): <https://www.youtube.com/@IRCI.Official>

